

I. 歓迎とレビュー

A. おはようございます。「おはようございます」。カルバリーチャペル岩国へようこそ。私たちの主であり、救い主であるイエス・キリストを礼拝するために集い、皆さんと一緒にここにいることができるとてもうれしい。

1. *新顔やネット配信者を歓迎する。抑止力*

B. 今朝もまた、岩国での生活を終える家族のために祈ることになると思う。ガット家の最後の日曜日だ。コールとエマ、そしてウェイロンとレイリーの息子たちは、コールが軍でのキャリアを続けるため、アメリカに戻る予定だ。

1. この時期は決して楽にはならない。一緒に成長してきた仲間に「さようなら」や「またね」と言うのは、いつだって辛いものだ。

2. ガット一家は、ここカルバリーで私たちの多くとつながりを持った。私たちはただ、彼らとともに過ごしたシーズンに主に感謝し、彼らがアメリカに戻って次の人生の章をスタートさせるのを見守るために祈りたい。

3. コールとエマ、もし君たちが今いる場所に立っていてくれるなら、それは素晴らしいことだ。それから、教会の指導者たちや導きを感じている人たちに、この家族のために祈るときに手を置いてもらえたら、それは祝福になる。(祈る)。

C. 人々が席に戻るとき、小学生の子供日曜学校の教室に解散させよう。

1. (2<sup>nd</sup>礼拝; 聖書英語のクラスは忘れずに解散する)

D. それ以外の人たちについては、ヘブル人への手紙の研究に戻って、章ごとに、節ごとに、この書物を読み進めていくことになる。

1. 先週、私たちはモーセの信仰と、彼がどのように信仰生活を選んだかを見てきた。パロの娘の息子としてではなく、主やその民と同一視することを選んだ。そしてそうすることで、罪の一時の快楽ではなく、苦難を受けることを選んだ。

2. モーセはその選択において、キリストの非難がエジプトやこの国が彼に与えるものを遙かに凌駕することを悟った。彼はエジプトを捨て、主を見つめ続けた。

3. さて、モーセは旧約聖書の聖人、信仰の英雄の中でも最も有名な人物の一人だろう。ほとんどの人は、モーセのこと、彼が行ったすべてのこと、彼が行った犠牲、彼が生きた人生、神に対する彼の心、神の民に対する彼の心について知っている。

4. しかし今朝は、ヘブル人への手紙11章という「信仰の殿堂」を進みながら、モーセやアブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフのようにあまり知られていない人々や人物に出会うことになる。

5. これらの人々は他の人々と同じように信仰生活を送ったが、彼らの物語はあまり知られていない。しかし、だからといって、私たちが彼ら一人ひとりから多くを学べないわけではない。

6. 彼らの信仰を通して、彼らは主のために勝利する生き方を示したのだ。信仰を通して、彼らは主のために勝利する生き方を示したのだ。これらの人々は、信仰を通して人生のあらゆる勝利を経験した男女だった。

7. これらの人々は決して完璧ではなかったが、神ご自身を除いては、私たちの誰も完璧ではない。彼らの信仰生活と勝ち得た勝利を見るとき、私たちが彼らの人生から教訓を学び、それを自分の人生に生かすことができると願っている。

E. 今朝のテキストはヘブル人への手紙11章30節から40節までで、学びのタイトルは『勝利する信仰』とする。

1. 聖書を持っているなら、ヘブル人への手紙11章を読んでほしい。今朝、聖書を持っていない人は、周りの椅子の下にある聖書を自由に借りて読んでほしい。

2. ヘブル人への手紙第11章を読んだら、もし可能なら、神と神の聖なる御言葉に敬意を表して立ち上がっていただきたい。

3. 私の聖書 (NKJV) からテキストを読んでいこうと思う。もし今朝は別の訳から読んでいるのであれば、それでも構わない。著者は、「信仰の殿堂」とヘブル人への手紙11章を、30節から始まる次のような言葉でまとめている。

II. イントロダクション&アウトライン

A. ヘブル人への手紙の著者は、聴衆に信仰生活を続け、ユダヤ教に戻る誘惑を避け、キリストにしがみつくよう勧めているのだ。

1. 約束された方は忠実だからだ。(ヘブライ10:23)。

2. 著者がこの手紙を書いている人々は、さまざまな誘惑や迫害、苦しみを経験している。彼らの多くは財産を略奪され、ある者は非難と見世物にされた。

3. 著者は、彼らには忍耐が必要であり、神が共にいてくださること、これらすべてが神のみこころの一部であること、そして神がその約束に忠実であることを信じて、これらの困難に耐え続ける必要があると述べている。(ヘブライ10:36)。

4. 第10章の終わりには、「正しい者は信仰によって生きる」と書いている。(ヘブライ10:38a)。

B. そしてその発言から、彼は基本的に、彼らを励まし、鼓舞する方法として、先達の忠実な男女の歴史のレッスンに入った。

1. 奇跡的な方法で神に用いられた人々を列挙し、彼らの証や証言を通して、人々が主との歩みに意欲を持つことを期待しているのだ。

2. おそらく彼らは、神への信仰によって困難に耐え、状況を克服した先人たちから学ぶことができるだろう。
3. アベル、ノア、アブラハムとサラ、そしてイサク、ヤコブ、ヨセフといった家長たちだ。
4. モーセは巨大だった。信仰の巨人だった。ユダヤ人は皆、モーセと彼の記述について知っていた。神は彼を通して信じられないようなことを行い、パロとエジプト全土に災いをもたらし、最終的にはイスラエルの民をエジプトでの束縛から解放するために神に用いられた。
5. 著者は物事の時系列を追いつつながらこの文章で興味深いことを行っている。
6. イスラエルの民の時間軸において、エジプトからの出エジプトの次にあるのは、砂漠での40年間の放浪である。
7. しかし、著者は出来事には一切触れていない。これは意図的に行われたことだと、多くの人が信じている。というのも、イスラエルの子供たちの人生におけるこの時間枠は、主への信仰と信念の時代というよりも、むしろ不信仰の時代だったからである。
8. 40年間、彼らは信仰において多くの勝利を得ることなく、砂漠で衰弱していった。その代わりに彼らの時間は、多くの泣き言と不平不満、多くの反抗と分裂、神の手からの多くの規律と裁きで満たされた。
9. そこで著者は、イスラエルの子供たちの歴史におけるその時間枠を賢くスキップし、代わりに、砂漠で死に絶えた人々の後の世代、つまり、信仰によって神が彼らに与えようとしていた約束の地に入り始めた人々に焦点を当て始めた。

C. 今朝の学びでは、テキストを大きく4つのセクションに分け、それぞれのセクションで、神が彼らのうちに、彼らを通して働かれた勝利のさまざまな要素に焦点を当てる。

1. 今朝の最初の箇所は、30節と31節にある「**カナンにおける勝利**」に関連している。イスラエルの子供カナンへの道を歩むときに経験した信仰の勝利を考察するために、もう一度これらの節を見てみよう。

### III. ヘブル11:30-31; カナンの勝利

A. 神がこの新しい世代を荒野から導き出したとき、彼らはヨルダン川の東側を旅していることに気がついた。

1. 途中、イスラエルの民はいくつかの異なる敵に遭遇し、いくつかの都市国家の王たちに勝利を収めた。
  - a. 実は、先週の水曜日の夜、民数記の学びの中で、これらの勝利の詳細について読んだばかりである。神はヨルダン川の東側で、アモンの王シホンとバシャンの王オグに勝利を与えられた。

2. しかし神は、ヨルダン川の西側、カナンの地にある約束の地に入り、その地をつかむようにと彼らを召しておられた。しかし、一つだけ問題があった。ヨルダン川の対岸には、屈強な勇士で埋め尽くされた要塞都市エリコがあった。
3. 荒野でイスラエルの民を攻撃したこれらの都市国家の王たちとは異なり、エリコの町は防衛の要塞だった。エリコは巨大な城壁に囲まれた都市であり、自分たちを攻撃しようとする部外者から完全に守られていた。

B. さて、この頃、ヨシュアはイスラエルの子らの指導者になっており偉大な軍事指導者であった。彼はモーセの隣で忠実に仕え、モーセがイスラエル軍を率いて戦いに出よう求めた人物だった。彼は指揮官、いわば將軍のようなものだった。

1. そして、戦いでイスラエルの子らを率いることに長けていた。すでに述べたように、シホンとオグに勝利し、またアラドの王や、エジプトから脱出したアマレク人にも勝利した。
2. そのため、彼は軍事戦略や、部下をどのように操り、どのような強さを発揮させれば勝利を得ることができるかを熟知していた。
3. そして彼らはヨルダン川を渡り、城壁に囲まれたエリコの町の真向かいに座っている。そして彼は、巨大な城壁に囲まれたこの巨大な城塞都市と戦う方法を考えなければならない。

C. 主はヨシュアのところに来られ、基本的にこう言われた。"おい、ヨシュア、エリコを確実に勝利させるために、君に素晴らしい軍事戦略を持って。それに対してヨシュアは、"神よ、それは何ですか?"と耳を傾けた。

1. そして神はヨシュアに、勝利の鍵はすべての兵を集め、エリコの町に向かって進軍させることだと告げられた。
  - a. "よし、とにかく数で圧倒して、進軍して、突撃して、それから街に近づいてどうする?"
2. 神は言う。"いや、街には行かず、ただ街の周りを行進するのだ"と。
  - a. "よし、では彼らを引き出して、こちらに出てくるように仕向け、彼らが口を開くたびに市内に流し込もうということか?"
3. 「いや、ただ町の周りを行進して、それから宿営地に戻れ。そして神は言われた。"ああ、ところで、7人の祭司を連れて来て、雄羊の角で作った7つのラッパを吹かせ、レビ人に箱舟を運ばせて、町の周りを回らせなければならない"。
  - a. 「戦いの訓練を受けていない祭司やレビ人を戦いに連れて行けというのか? そして、彼らに雄羊の角を吹かせ、箱舟を担がせ、他の戦闘要員とともに都の周囲を行進させよというのか」。
4. 「その通りだ

- a. 「初日は宣戦布告というか、本気だという警告のようものだ。そして翌日、我々は戦闘態勢に入り、攻撃を仕掛けるということか？」
5. 「翌日も同じことをする。祭司たちは角笛を吹き鳴らし、レビ人は箱舟を担ぎ、すべての戦士はただ町の周りを行進するだけだ。ヨシュアよ、これを6日間続けるのだ。そして七日目に、われわれは行動を開始する」。
- a. 「オーケー、主よ、ではどうするのですか？」
6. 「7日目には、以前と同じように街の周りを行進し、司祭たちは以前と同じように角笛を吹く。
- a. 「じゃあ、攻撃するのか？」
7. 「いや、市内を何度も何度も行進することになる。全部で7回だ。そして部下全員に大声で叫んでもらうんだ」。
- a. 叫べ。それが作戦なのか？」
8. 「そうだ、大声で叫べば勝利は君たちのものだ。君たちが全力で叫べば、エリコの城壁は崩れ落ちる。そして、街は完熟する。」
- D. もちろん、これはヨシュア記6章の私のアドリブである。ヨシュア記6章では、神はヨシュアのところに来て、ヨシュアの意見を聞くことなく、これらの詳細をヨシュアに与えた。
1. しかし、ここで少し考えてほしい。君たちの多くが現役の軍人であることは知っているし、君たちの多くは、健全な軍事戦略のように見えるものがあれば、それを見分けられるだけの軍人が周りにいる。
  2. 神がエリコの町を征服する戦略をヨシュアにとき、ヨシュアの頭の中には何があったのだろうか。
  3. これは良い戦略とは思えない。もしあなたの指揮官が現れてこの場所を占領するつもりだ、我々の戦略はただ6日間その場所を行進し続けるだけだ、そして7日目にはクラクションを鳴らしながら、そして叫びながらその場所を7回行進するんだ、と言ったとしたら、ほとんどの人は、この指揮官はもうダメだと思うだろう。
- E. しかし驚くべきことに、ヨシュアは主が命じられたとおりに行動したのだ。信仰によって、彼はイスラエルの子供たちを率いて、エリコの町に対するこの奇想天外な軍事とったのである。
1. 戦士と祭司とレビ人は6、毎日1回、角笛を吹き鳴らしながら、契約の箱を担いで都の周りを行進した。
  2. ヨシュアは「わたしがあなたがたに『叫べ！』と言うその日まで、あなたがたは大声を出してはならない。(ヨシュ.6:10)。

3. そして七日目に、彼らは角笛を吹き鳴らしながら、その周囲を七回行進した。ヨシュアの命令で、祭司たちが都の周囲を七周して角笛を吹き鳴らすと、民は皆、力いっぱい叫び、城壁は崩れ落ち、地面に平らに倒れた。すると、民は皆、自分の前にまっすぐ進み、都に上って行き、都を占領した。(ヨシュ6:20)。
- F. 神はヨシュアに勝利を約束された。見よ、わたしはエリコとその王と勇士たちをあなたの手に渡した。(ヨシュア記6:2)。
1. 信仰によって、ヨシュアとイスラエルの子供たちは、その過程が彼らにとってまったく意味をなさないものであったとしても、神の約束を信じた。
  2. 教会家族の皆さん、私たちの信仰生活において、神が私たちのために示してくださる計画やプロセスは必ずしも私たちにとって意味のあるものではない。しかし、それは信仰を続けない言い訳にはならない。
  3. わたしの思いはあなたがたの思いではなく、あなたがたの道はわたしの道ではない。天が地よりも高いように、わたしの道はあなたがたの道よりも高く、わたしの思いはあなたがたの思いよりも高い。(イザ.55:8-9)
  4. 神があなたに知らせようとしているプロセスが、あなたにとってまったく意味をなさないものであったとしても、それは単に主の道と考えがあなた自身の考えを超えているだけであり、主と主の約束を信頼し続けなければならないのだ。
  5. 神は決して捨てず、見捨てない。主は、あなたのうちに始められた良いわざを完成させてくださる。
  6. その過程や計画は、私たちにはあまり意味をなさないかもしれないが、神が働いておられ、神の御心が成されていることを信仰によって信じよう。
- G. さて、ヨシュアとイスラエルの子どもたちだけが、カナンでの勝利の際に信仰を認められたわけではない。本文には、ラハブという女性とその勝利についても書かれている。
1. さて、もしあなたがラハブの記述をよく知らないとしたら、それはおそらくあなただけではなからう。ラハブの記述を知っている人は、アブラハム、サラ、モーセに混じって彼女が信仰の殿堂に列挙されているのを見て、少し驚くかもしれない。
  2. もしあなたや私が神の殿堂に人を入れるなら、ラハブはどのリストのトップにも入らなかつたかもしれない。しかし、それこそが彼女の記述を特別なものにし、信仰の殿堂で言及するに値するものになっているのだ。
- H. ラハブの知らない人のために説明しておく、ラハブは城壁に囲まれたエリコの町に住んでいた女性である。
1. 神がヨシュアにエリコの町を破壊するための偉大な軍事戦略を与える前に、ヨシュアはエリコの町に関する情報を集めるためにスパイをこの地に派遣していた。
  2. 彼は密かに調査し情報を集めるために二人の男を、この二人はエリコの町に入り、ラハブの家に宿を見つけた。

3. 聖書は、ラハブが娼婦であったこと、そしてそれが彼女の商売であったため、男性旅行者が彼女の家に宿を求めるのはおかしいことではなかったと、はっきりと語っている。
  4. さて、エリコの王に、イスラエルの民が送り出したスパイがこの町に知らせが入った。
  5. そこで王はラハブに、彼女の家に来た男たちを連れ出すようにと送った。(ヨシュ.2:3)。
  6. しかし、ラハブは男たちを出頭させる代わりに、男たちを屋根の上の亜麻の山に隠し、王に「男たちは自分のところに来たが、すでに城門を通過して出て行った。
  7. なぜなら彼女はこの男たちが誰であるか知っていたし、彼らのいたからである。ヨシュア記には、屋根の上に隠れていたスパイたちに対するラハブの驚くべき信仰宣言が記されている。
    - a. 主があなたがたにこの地をお与えになったこと、あなたがたの恐怖が私たちの上に降りかかったこと、また、この地のすべての住民があなたがたのために気弱になっていることを、私は知っています。私たちは、あなたがたがエジプトから出たとき、主が紅海の水をあなたがたのために干されたこと、また、ヨルダンの向こう側にいたアモリびとの二人の王、シホンとオグをあなたがたが滅ぼされたことを聞いたからである。あなたがたの神、主は天の上にも地の下にもおられる神だからです」。そして彼女は、神がこの町をイスラエル人の手に渡されたとき、彼女の親切が彼女に返され、彼女とその家族が助かるようにと願った。(ヨシュ.2:9-11)。
  8. すごい。ラハブは、イスラエルの民の主なる神が天上と地上の唯一の真の神であることを知っていた。彼女にとって、それ以外のことを示唆するには証拠が多すぎたのだ。彼女は主を信じ、信仰によって彼女の家に来たスパイたちを守った。
- I. イスラエルの民がエリコの町を7回行進し、叫び声をあげて城壁が崩れ落ちたその7日目に、少なくとも城壁の一部が崩れ落ちなかった。
1. 聖書によれば、ラハブは城壁の上に住んでいた。彼女は、城壁の上にあった自分の家の窓から、緋色の紐でスパイたちを外に逃がした。
  2. そしてスパイたちはラハブに、彼女が窓から緋色の紐を垂らして自分の家を他から識別しない限り、保護の誓いから解放されると告げた。
  3. 城壁が崩れ落ちた日、ラハブは家族全員を自分の家に集めていたので、神への信仰を欠いていたために町の他のすべての人々に襲いかかった破壊を免れた。ラハブは家族全員とともに神の裁きを免れたのだ。
4. ラハブと彼女の物語は奇妙な物語であり、また、他の信仰の英雄たちの中で語られるに値しないと思われるかもしれないが、私はここで、この物語はあなたが最初に考えたり考えたりする以上に重要であることを伝えたいのだ。
  5. ラハブの物語は、神の恵みとイエス・キリストの福音の美しさを描いているからだ。彼女の窓から垂れ下がった緋色の紐は、神が聖書全体を通して織り成す、神の偉大な贖いの計画を伝える緋色の糸の絵であり、型である。
    - a. ラハブの物語は、どんなに不潔な生い立ちであろうと、どこ出身であろうと、社会的な立場であろうと、恵みの福音の届かない人はいないことを私たちに教えてくれる。
    - b. 信仰によって神に近づくなら、すべての人は神の驚くべき恵みのトロフィーにすることができる。
    - c. ラハブは遊女であり、乱れた生活を送り、異教の育った異邦人だった。しかし、神は彼女に手を差し伸べた。
    - d. 彼女は主について聞き、主がイスラエルの子供たちのうちに、またイスラエルの子供たちを通して働かれた主のすべての素晴らしい方法について聞き、主が天地の唯一の真の神であることを確信した。
    - e. ラハブの物語は、福音がとことんまで救うことができることを私たちに教えてくれる。それだけでなく、彼女の物語はそこで終わらない。
    - f. 彼女の人生は、誰かを救うという神の恵みを私たちに示すだけでなく、誰かを神の栄光のために用いるという神の恵みをも示している。
    - g. 私、神はどこまでも救うことができると信じているかもしれないが、神がラハブのような人物を救えるだけでなく、聖書全体を通して紡がれている神の偉大な贖いの物語の一部として、彼女のような人物を転じて用いることができると信じているだろうか？ 神はここまで墮落した人を救い、その人を神のひとり子をもたらすために用いることができると、私たちは信じているのだろうか？
    - h. ラハブの人生にまさにそれが起こった。ラハブはサーモンという男と結婚し、ボアズという男の子を産む。そしてボアズはルツと結婚し、一緒にオベドを産み、オベドはイエセを産み、イエセはダビデを産む。ラハブはダビデの曾祖母である。
    - i. そしてラハブは、マタイによる福音書1章に記されているイエス・キリストの系図に名を連ねている。彼女は、私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの偉大な、偉大、偉大な、偉大な、「全部で30人の偉大な」おばあちゃんである。(マタイ1:5-6a)
  6. 信仰の殿堂でラハブが言及したことは、**福音には**救うだけでなく、人生を変え、その人生を神の栄光と御国のために用いる**力がある**ことを思い起こさせる。

J. ラハブ、彼女は最高のスタートを切ったわけではなかったが、神への信仰を通して、聖書が最も偉大な信仰の女性の一人となった。このような美しく素晴らしい物語、彼女の勝利に満ちた信仰生活は、私たちすべてにとって重要である。

K. では、次の聖句32-35a節に移り、「**状況に打ち勝った**」人々について考えてみよう。

#### IV. ヘブル11:32-35a; 状況に対する勝利

A. この箇所で著者は、聴衆の前に現れた信仰の英雄たちの詳細をすべて合うには、時間も場所も足りない。

1. 本当は、それぞれの人生と彼らが私たちに教えてくれる教訓を深く掘り下げてみたいのだが、そんなことをしていたら、おそらくあと1ヶ月はヘブル人への手紙11章を読み続けることになるだろう。だから、私も最善を尽くして進んでいくつもりだ。

B. それぞれの人生を簡単に見て、彼らが生きた勝利の信仰生活から私たちが学べる教訓を抜き出したい。

C. まずはギデオンから始めよう。ギデオンの記述は士師記6章から8章にある。ギデオンは、子らが主によってミディアン人に引き渡された時代に生きた。イスラエルの子らは主の目の前で悪を行ったので、これは彼らの罰であり、神は彼らを敵に引き渡された。

1. イスラエルの子供たちは主に叫び、主はミディアン人に勝利するために彼らを導くことができる裁判官を起こすことを決められた。

2. 神は主の天使をミディアンに遣わされた。ギデオンはミディアン人を恐れて葡萄畑に隠れて麦を脱穀していた。主の使いが現れると、ギデオンはこう宣言した。"主はあなたと共におられる。(士師記6:12)

3. 天使はギデオンに、神がどのように彼を用いてイスラエルをミディアン人の手から救おうとしておられるか、そしてどのように彼を送り出そうとしておられるかを告げた。

4. しかし、ギデオンは基本的に、人違いだと言った。主よ、どうしたらイスラエルを救うことができるでしょうか。私の一族はマナセの中で最も弱く、私は父の家の中で最も小さい者です(士師記6:15)。(士師記6:15)

5. しかし、天使はギデオンに、神は本当に彼を用いようとしておられると確信させた。やがてギデオンは立ち直ったが、ミディアン人とその13万5千人の大軍を恐れていた。ギデオンは周辺地域からギデオンと共に戦いに行く人々を集めたが、32,000人しか集めることができなかった。

a. ギデオンに対する信仰の教えが始まったのだ。

b. ギデオンは32,000人に対し135,000人という恐ろしい不利な状況に直面していた。敵はギデオンとその軍勢に対して4:1以上の割合で戦っていた。主はギデオンのもとに来られ、こう言われた。"あなたと共にいる民は、イスラエルが私に対して、『自分の手が私を救った』と言って栄光を主張しないように、ミディアン人を彼らの手に渡すには、私には多すぎる。(士師記7:2)

c. そこで神はギデオンに、恐れおののいて戦いに出ようとする者のために、誰でも外に出るようにと言われた。そして、22,000人がギデオンから去り、135,000人に対抗できる兵力は10,000人しか残らなかった。

d. 神はギデオンに、「民はまだ多すぎる」と言われ、ギデオンの軍勢をわずか300まで削られた。そして、神は証しされた。"300によって、わたしはあなたを救い、ミディアン人をあなたの手に渡す"。(士師記7:7a)

6. そして、それこそが神のなさったことなのだ。神はギデオンの300人をミディアン人に対する勝利へと導かれ、一見すると克服不可能と思われた不利な状況も克服されたのである。

7. ギデオンは自分が弱いと思い、神はこの仕事には間違った人を連れてきたと思った。しかし神はギデオンに、神があなたの味方である限り、恐れることは何もないと示された。

8. 神はギデオンに約束し、神が共におられると宣言された。ギデオンが弱くても、32,000人でも、10,000人でも、300人でも関係。神は彼とともにおられた。神があなたのためにおられるなら、誰があなたに逆らうことができようか? **神があなたとともに**おられるなら、恐れることは何もない。

9. 迫害と誘惑に直面していたヘブライ人たちにとって、なんと大きな励みだろう。ギデオンの物語は、神がギデオンと共におられたように、神もおられることを人々に思い出させる。そして彼らが主とともにいる限り、どんなに多くの人々が彼らに敵対しようとも、何一つ恐れる必要はないのだ。

a. 私たちもギデオンと神が彼に教えた教訓に励まされるように。神は私たちとともにおられ、私たちのためにおられる。恐れる必要はない。

b. しかし、使徒パウロがコリントの信徒への手紙第二12章に書いてことを思い出してほしい。わたしが弱いときこそ、わたしは強いのである。"(2コリント12:10)(2コ12:10)

c. 神はパウロに、神の力はパウロの弱さのうちに完全なものとなると言われた。私たちが弱さの中で、神はご自身の力を完成させてください。(2コ12:9)

D. 著者は他にも数人のリストアップしている。バラクはここに挙げられている。シセラの900両の鉄の戦車と戦うためにイスラエルの民を率いた彼の話を思い出すかもしれない。

1. 預言者デボラはバラクのもとに来て、1万人の兵を集め、シセラとその軍勢との戦いに出陣するよう告げた。

2. しかし、バラクは臆病だった。彼は、デボラと一緒にいくと約束しない限り、戦いに行きたくなかった。デボラは自分が行くと言ったが、バラクが一人で行くことを望まなかったため、主は勝利の栄光を女性に与えようとした。そしてその通りになった。

3. ヤエルという名の女がシセラを騙して自分のテントに避難させ、彼が昼寝をしている間にテントの釘で彼の頭を貫いて地面に突き刺した。いたわけではない。もしこの話をよく知らないなら、士師記4章と5章に書かれているので読んでみてほしい。

E. サムソンもここにリストアップされている。サムソンは女に弱いヒーマンだった。

- ここに列挙された判事たちは皆、欠点があり、決して完璧ではなかった人々だ。その人たちが信仰の殿堂にいることは、私たち全員を勇気づけるはずだ。信仰生活で勝利するために完璧である必要はない。
- 私たちは失望させることを目的とせず、御前で立派に生きたい。しかし、欠点があった人、一度や二度、三度、あるいはそれ以上失敗した人を、神は用いることができると知ることは励みになる。
- サムソンは、ナザリ人として関わる資格のないことに巻き込まれ、人生の大半を無駄にしたように見えたが、敵に縛られ、盲目となった後、その生涯の最後にもう一度、主に呼びかけたと書かれている。
- サムソンは、自分をあざけり、嘲笑するために、敵の前に連れて来られた。主なる神よ、私を思い出してください！神よ、一撃で私の両目のためにペリシテ人に復讐することができるように、祈ります。サムソンは神殿を支える二本の中柱をつかみ、一本は右に、もう一本は左に立てかけた。そしてサムソンは言った、『ペリシテ人と共に死なせてくれ！』。そして彼は力いっぱい押すと、神殿は諸侯とそこにいたすべての民の上に倒れた。それで、彼が死ぬときに殺した死者は、彼が生前に殺した数よりも多かった。(士師記16:28-30)
- サムソンは信仰によって打ち勝った。最後の二撃でペリシテ人に致命的な打撃を与え、イスラエルの民をペリシテ人から救い出すことができるのだ。

F. 次に登場するのはエフタである。エフタについてはあまりご存じない方が多いと思うが、彼の記述も士師記の11章と12章の前半にある。

- エフタは荒れた生い立ちで、生活は楽ではなかった。彼の父親は娼婦と不倫関係にあり、彼はその関係から生まれた子供だった。エフタの父には妻との間に他に子供がおり、家族全員がエフタが隠し子であることを知っていた。
- 聖書によれば、彼は勇猛果敢な男だったが、兄弟たちは彼を嘲笑し、憎み、軽蔑の目で扱い、ついには家族から追い出した。(士師記11:2b)
- 逃亡したとき、エフタは悪い仲間と紛れ込み、しばしばその仲間たちと略奪に出かけた。だから彼は荒々しくタフな男で、簡単に脅したり怖がったりはしなかった。
- そして長い年月の後、アンモンの民がイスラエルに対して戦争を仕掛け、エフタの出身地であるギレアドの民は絶望的な助けを必要としていた。そこで彼らは異母兄のエフタに手を差し伸べ、戦いに導いてくれるよう求めた。

5. エフタは答えた、「あなたがたは私を憎み、父の家から追放したのではないか。なぜ、苦境にある今、私のもとに来たのか。(士師記11:7)

- なぜなら、アモンの民は自分たちにとってあまりにも偉大で、自分たちの安全を守り、戦いで自分たちを導くために、彼のような者が必要だったからだ。
- エフタは家族を助けることに同意し、主の霊が彼に臨み、アンモンの民に対して、そして家族のために偉大な勝利をもたらすのを助けた。彼らの命を救い、一族の英雄となった。
- エフタの話は、ヘブル人への手紙の読者の何勇気づけるものだと思う。イエスへの信仰のゆえに、ある者は家族から追い出され、見捨てられた。
  - エフタの記録は、いつか自分たちの家族が困難な状況に陥り、苦境に立たされ、どうすればいいのか、誰に助けを求めればいいのかわからず、自分たちが経験している困難に対する希望と答えを見つけるために、エフタに手を差し伸べるかもしれないというのを、彼らに思い出させ、おそらく勇気づけるだろう。
  - これは私の何度も起こったことだ。私とは関わりたくないと思っていた人、人生で最も困難で困難な状況に見舞われ、突然、祈りや導きや助けを求めて私に手を差し伸べてきたのだ。
  - もしかしたら、あなた自身の人生にも似たようなことがあるかもしれない。あなたが信者であることを知っていて、質問があって、答えが必要で、キリストへの信仰を通して私たちの内にある希望について知りたがっている。

9. エフタの話は、過去の誰かがいつ希望と答えを求めて手を差し伸べてくるかわからないということ、そして私たちは、自分の内にある希望の理由を尋ねてくるすべての人に、柔和と恐れを持って弁明する用意を常にしておくべきだということを示している。(1ペテロ3:15)

- もしかしたら、あなたは愛する人が主のもとに来るように祈っていて、これまで何度も証ししてきたかもしれない。ある日、彼らがあなたに手を差し伸べ、彼らのために祈ってくれるように頼んだとしても、驚かないでほしい。困難や試練が訪れ、人々が希望を必要とするとき、彼らが私たちに目を向け、私たちが彼らを主と主にある希望に導くことができますように。
- 私たちの生活とキリストへの信仰が、主を切実に必要としている世界にとって希望の光となるように。

G. さて、著者はここで預言者たちとともにダビデとサムエルにも触れている。おそらく、彼らの人生についてはもっと詳しいだろう。

1. ダビデは人々に愛されたイスラエルの力強い王だった。しかし、彼は王族に生まれたわけではない。彼は8人兄弟の末っ子で、兄たちが敵と戦っている間、一家の羊を飼う役割を担っていた。
2. ダビデとゴリアテの話を知っているだろう？ ゴリアテはイスラエルの子供たちに立ち向かい、イスラエル軍に反抗し、一対一で戦おうと呼びかけた。
3. ある日、ダビデの父は、物資を運ぶためと兄弟の様子を見るために彼を戦場に送った。ダビデは、ゴリアテがイスラエルの人々を愚弄し、生ける軍勢に逆らうのを聞いた。
4. しかし、ダビデはそれを許さなかった。ダビデは前に出て、巨人と戦うと宣言した。ダビデは、当時イスラエルの王であったサウルのもとに遣わされ、彼の訓練や戦ったことがあるかどうかを尋ねようとしたが、ダビデは、羊を奪おうとしたライオンや熊の前足から神がどのように彼を救い出されたか、また、神とその軍隊に逆らうこのペリシテ人に対しても、同様に神が共にいてくださるという話をした。
5. やがてダビデは戦場で巨人ゴリアテと一対一になり、ゴリアテはダビデをあざけり、嘲笑した。
6. しかし、サムエル記上17章で、ダビデはこう答えている。しかし、私は、万軍の主、すなわち、あなたが逆らったイスラエルの軍勢の神の名によって、あなたのもとに来た。今日、主はあなたをわたしの手に渡される。わたしはあなたを打ち、あなたの首を取る。そしてこの日、わたしはペリシテ人の陣営の死骸を、空の鳥と地の野獣に与える。そうすれば、このすべての者は、主が剣と槍をもって救われるのではないことを知るであろう。(1サム17:45-47)
7. ダビデは、乗り越えられないと思われる困難や状況に打ち勝つために、非常に重要な真理を知っていた。彼は、**戦いは主のものである**ことを知っていた。
8. その勝利は、自分の力や経験、あるいは欠如によってもたらされるものではなかった。勝利は主から、そして主のみからもたらされるのだ。
  - a. 数年後、預言者ゼカリヤがゼルバベルに主の言葉を告げたとき、同じようなメッセージを宣言することになる。(と万軍の主は仰せられる。)
  - b. 戦いは主のものである。信仰によって、ダビデは巨人ゴリアテを倒し、戦いは神のものであって自分のものではないと信じた。ダビデは、偉大な勝利をもたらすために神によって用いられることを望む、意思を持った器に過ぎなかったのだ。
9. もしかしら、今朝ここにいるあなたは、乗り越えられないような障害や状況に直面しているかもしれない。あなたが励まされますように

戦いは主のものであり、主が選ばれるなら、主は勝利をもたらすことができ、あなたが信仰によって主に向かうとき、主はあなたが打ち勝つのを助けることができる。

- H. そして、この教訓はこれらの人々から得たものである。信仰によって、彼らは皆、自分の置かれた状況に対する勝利を見出した。
  1. ヨシユアやダビデ、そして神が起こされた多くの士師たちがそうだった。
  2. 彼らは正義を行なった、あるいは、彼らが正義を行なった、あるいは、彼らが正義を執行した、と訳すこともできる。
  3. 彼らは約束を得、ライオンの口を止めた。これはダニエルとダニエル6章に書かれているダニエルのことを指しているのだろう。人々はダニエルをライオンの餌にしようとしたが、神は彼らの口を止められた。
  4. おそらく、ダニエルの親友、シャドラハ、メシャク、アベド・ネゴが、ネブカデネザル王によって投げ込まれた火の炉から救い出されたことを指しているのだろう。
  5. 彼らは剣の刃から逃れ、弱さから強くなり、戦いの勇士となり、異邦人の軍勢を退けた。まるでギデオンのようだ。
  6. 女性たちは死者を生き返ら。預言者エリヤとエリシャの働きによって、列王記上1章のザレファテのやもめや、列王記上2章のシュナミの女にこのことが起こった。
  7. これらの驚くべき勝利はすべて、極めて困難で困難な状況に打ち勝ったものである。信仰によって、神が勝利をもたらしたのだ。
- I. しかし、誰もがここに挙げた人々と同じ結果を経験したわけではない。次のセクションでは、"**カストロフィを超えた勝利**"を経験した人々にスポットを当てる。35-38節の残りを一緒に読もう。
  - V. ヘブル11:35b-38; カストロフィを超えた勝利
    - A. また、同じような状況からの解放を経験しなかった者もいる。ある者は大惨事を経験した。ある者は信仰のために拷問を受け、あざけられ、鞭打たれ、投獄され、石打の刑で殺され、真っ二つに切り裂かれて剣で殺された。
      1. 預言者エレミヤはこのようなことをたくさん経験した。また、預言者イザヤは神殿の破壊を預言した後、邪悪な王マナセの命令によって真っ二つに切り裂かれたと多くの人が信じている。イザヤはくりぬかれた木の中に身を隠し、マナセは彼を見つけると、イザヤのいる木を二つに切るように命じたと言われている。
    - B. 興味深いのは、34節では剣の刃から逃れた者たちのことが書かれているが、37節では剣で殺された者たちのことが書かれていることだ。
      1. そしてこのことは、私が理解すべき非常に重要なことを示唆している。神は聖徒たちをいつも同じ方法で解放されるとは限らない。すべての人が信仰によって生きたが、すべての人がその境遇から解放されたわけではない。

死んでしまったのだ。ということは、彼らの信仰は、助かった人たち、救い出された人たちほど大きくなかったということだろうか？ いや、そんなことはない。

2. それはただ、神が彼らの人生において、また彼らの人生を通して異なる働きをすることを選んだということだ。繰り返すが、神は私たちの力をはるかに超えた方法で働いておられるのだ。
  3. 人生の大惨事を経験したこれらの人々は、より良い復活を得る、救いを受け入れようとはしなかった。
    - a. 彼らはこの世と地上での生活のために生きていたのではない。彼らは、**より良い復活**のための神の約束を信じ、そのために生きていたのだ。死後の復活によって、彼らは天の主の御前に入ることができるのだ。
    - b. 彼らはアブラハムのように信仰によって生き、永遠の故郷を見つめ、土台のある町、その建設者であり造り主である神を待ち望んでいた。
  4. この人々に対する世間の評価は、生きるにふさわしくないというものだった。彼らはこの世の人々によって拷問され、殴られ、鞭打たれ、あざけられ、誘惑され、苦しめられ、殺された。
    - a. しかし、彼らに対する神の評価を知っているだろうか？ 神は、この世は彼らにふさわしくないと言われた。この世界は、大惨事を乗り越えて勝利を見出した男女にはふさわしくなかった。
    - b. もしかしら、今日ここにいるあなたは、人生でこのような大災害や喪失を経験しているかもしれない。それでも、あなたは神を賛美し、信仰によって生き続けている。
    - c. あなたが希望と焦点を永遠のものに据えて、日々そうし続けることを祈っている。この地上での人生は短く、信仰によって生きようとするすべての人には、より良い復活が待っている。神との歩みを前進させ続けなさい。いつか、あなたのすべての痛みと心の痛みが、主によって永遠に癒されることを知っているのだから。
- C. 最後の節と、私たちの **"キリストによる勝利"** を扱った最後のセクションを見て、テキストと私たちの研究を手短かにまとめよう。

## VI. ヘブル11:39-40; キリストによる勝利

- A. 39節と40節は、ヘブライ人信仰の殿堂の一員として11章に列挙され、言及されているすべての男女に関する要約である。
1. 著者は、彼らがいかにして良い証言を得たかを書いている。この証言という言葉は、誰かが他の人を承認すること、あるいは他の人のことを良く言うことに使われる。この例では、神の好意、神の承認について語っている。
  2. 神はこれらの人々一人一人を見て、彼らの人生すべてに承認印を押された。そして、彼らはどのようにしてこの良い証しを、彼らの承認印を押されたのだろうか？ 自分の力でも、強さ

でも、決意でも、粘り強さでもない。信仰によってである。**彼らの信仰によって**、神は彼らの人生に神の承認を与えたのである。

3. これらの人々は皆、信仰によって良い証しを受けたが、約束は受けなかった。神のメシアの約束とは、神の恵みが多くの人々に注がれ、信仰による恵みによって人々が神に完全に近づくことができる、新しい契約の到来を告げる人である。
4. しかし、著者は40節で、神が私たちのためにもっと良いものを備えてくださった、と書いている。彼らより先に行った人々は、模範的な信仰生活を送ったが、約束を受け取らなかった。しかし、彼らには約束があった。彼らは神のメシアの到来を見た。新しい契約の成立を見た。彼らは、信仰による恵みによってもたらされる救いを経験し、いつか天国で昔の聖徒たちと一緒に、神の臨在の中で永遠に完成されるのだ。
5. 信仰の英雄たちは、約束を受け取っていないにもかかわらず、忍耐し、耐え忍び、信仰によって生きた。しかし、著者やその聴衆、そしてこの記述を読んでいる私たちでさえ、約束を受け取っている。そして、この信仰の英雄たちは、神のいつくしみと信仰の力の証しとして立っている。
6. いつの日か、私たちもまた、昔の聖徒たちや、キリストが来られてから私たちより先に行った聖徒たちとともに、永遠に**完成される**のだ。
7. 私たちは、カルバリの十字架上でイエス・キリストの働きのおかげで、永遠に一つの信仰において、一つの体に結ばれる。キリストの死と復活によって、私たちは皆、信仰の英雄たちとともに結ばれ、キリストへの信仰によってともに完成される道が開かれたのである。
8. アーメン？ アーメン祈ろう。